

2016年・

シアトルの海外インターンシップを終えて

外国語学部 中国語学科3年 伊藤 陽貴

私がこの夏、海外インターンシップに参加しようと思った理由は、来年就職活動を控えた今、会社で働くとはどういうことか、また自分にはどのような職種が向いているかのヒントを掴む事と、言語が違う国で働くという経験、英語のスキルの向上といった三つが理由でした。そして実習において意識しようと思ったのがこの3つです。

- ・オフィスワークか体を動かす職の、どちらが自分にとって働きやすいかを考える
- ・語学力の向上
- ・限られた時間の中で、どれだけの役割を与えるかどれだけこなせるか

シアトルでの実習

私が実習先に選んだのは、ワシントン州のシアトルにあるY.M.C.Aでした。なぜ、幾つか選択肢のある中でY.M.C.Aを選択したのかというと、次のような事が理由でした。



↑「同僚のスタッフ達との昼食の写真」

私は今までサッカーをやってきました。サッカーを通じてスポーツの楽しさを始めに、体の鍛え方やコミュニケーションの取り方等を学び、それ等活かせる場所だと思った事とせっかく言語の違う国で働けるので日本人が実習先にいな事、そして、できるだけ多くの人と英語を用いて話せる機会が他の企業と比べ多いのではないかと思いY.M.C.Aを選みました。

実習初日から9月の頭まで、夏に行われる6歳から10歳くらいの子供を対象とした、サマー・キャンプという子供が集まつてスポーツや物作り（小学校の授業でいう図工のような事）、リエーションをするプログラムの運営（子供たちの身の回りの管理、スポーツのレクチャー、運営がスムーズに行うための子供の誘導）をして、残りの一週間はY.M.C.A内で、エントランスでのカスタマーサービスのアシスタンント（お客様の案内、タオルの管理、Y.M.C.A側が管理するボルダリングやトレーニング用具の貸し出し、会員手続き

の案内、お客様の問い合わせ)や、キッズゾーングという子連れのお客様の子供を預かり一緒に遊んだり喧嘩などがないよう注意を促したり、身の回りの世話をするようなサービスを提供して実習を行いました。

実習成果として得たもの

今回の実習で、日本人のいない環境を選び働くことができたので、自分が話せる英語のシチュエーションが確実に増えたと思います。

また、1ヶ月と10日という短い時間のなかで、自分がどれだけ成長できるかという事を意識して仕事をするにあたって、まず自分を知つてもらう事が重要なのではないかと思い、挨拶の最低限の事を自らするようにしていました。そうすると、だんだんと自分にも役割が回ってきて、最初は子供たちがトイレを利用する際に子供をトイレに誘導したりという言語を然程用いらぬ役割のようなく普通の子供たちの世話をするアシスタントから、キャンプ地に向かう子供の誘導、スポーツキャンプでのトレーニングメニューの考案、子供達にデモンストレーションやティーチング、サマーキャンプの最後の週には子供たちのグループを受け持たせていたなど、仕事の幅が増えていくのが実感できました。また、施設内では一週間と約四週間実習させてもらつたスポーツキャンプと比べ短い時間しか働く事ができませんでしたが、ジム内のサービスで貸し出しているタオル管理から始まって、週の半ばにはエントランスでお客様の案内や会員手続き、YMC A側で管理しているボールやトレーニング用具の貸し出しを任せてもらい、最後には右手左手と二つのエントラ

ンスのうち片一方を全て任してもらつたりして、裏方の仕事からお客様の前で仕事をさせていただくことがました。

また、実習中困難だった事は、言語の壁でした。人によって異なる話し方やアクセント、スピードに慣れるのが一番大変だったと思います。特に子供と話すときが大変で、理解できないとどこかへ行つてしまつたり、会話する際も5W1Hを用いない形で質問していく事が多く、コミュニケーションを取るのが大変でした。自分にとって、これを乗り越えるには、めげずに継続するしかないと思いました。そうした結果、自分が言いたい事を理解できない子供に別の子供が説

こかへ行つてしまつたり、会話する際も5W1Hを用いない形で質問していく事が多く、コミュニケーションを取るのが大変でした。自分にとって、これを乗り越えるには、めげずに継続するしかないと思いました。そうした結果、自分が言いたい事を理解できない子供に別の子供が説



↑「キャンプに参加する子供達との1枚」

実習を通して感じたこと

今回アメリカでの実習で感じたことが幾つかあります。一つ目は、食生活です。日本では、米に野菜や肉、魚を使ったおかずするのがごく普通でしたが、アメリカでは、子供の昼ごはんが、ハンバーガーやトルティーヤのような肉や野菜をパンで挟んだファーストフードにナック菓子が主な昼ごはんだったことに非常に興味を抱きました。なぜなら、私は小学校の頃からサッカーや水泳といったスポーツ教室に通つていて母親は常に栄養バランスを考えた献立で料理を用意していくくれました。しかし、オリンピックでは多くのメダルを取り、野球、バスケットボール、アメリカンフットボールといった多くのスポーツビジネスが盛んなアメリカでは、どうやつてあのハイレベルな選手を生み出しているのか気になりました。

二つ目は、集団で生活する際起こりうる『いじめ』についてです。自分が受け持つた子で確かに他の子供と喧嘩ばかりする子供やガキ大将のような子供もいましたが、数週間同じグループで生活する中で集団での『いじめ』が起ころなかつたことに驚きました。日本の『いじめ』を防ぐのは日本人種でもないアメリカで『いじめ』を防ぐのは日本より難しいのではないかと思います。サマー

2016年・シアトルの海外インターンシップを終えて

キャンプでも生活で確かに子供たちがいざこざを起こすことはありました。私が、いざこざを起こした子供の友達がその後、加勢していざこざを再び起こすことがありませんでした。私は、言語の性格なのかもしれないが日本とは違い、小さなうちからYES/NOWをはつきりする文化がこういったところでも生かされていて、一人一人がパーソナリティを持つていて、それを尊重しあった接し方がこの年代でもできているのではないかと思いました。また、私が街を歩いていても、ニーオーとからかわれるようなこともなく生活しやすい環境でもありました。

三つ目は、私は去年イギリスに留学していく街中は日本で言うブリティッシュ英語が飛び交っていました。中でもイギリス人は、よく swear wordsを使っていたのを覚えています。留学中これを学校の先生に聞いたところ、人によって異なるが、英語のリズムやアクセントをつけ格好良くする役割のほか、今ではごく普通に使うマジやヤバいといった、やや汚い感情表現として使われることが多いのだと聞いた。しかし、アメリカで実習していた当時のように swear wordsを聞くことがあまりませんでした。確かに、私が実習していたYMCAでは、子供の教育という部分があつたのもあり、使つてはいけないような雰囲気がありました。映画でよく聞くshitですらアメリカでは、あまり良い言葉ではないと教わつたと生徒に教えてもらつた事もありました。私は日本という小さな独自の文化、言語で発展を遂げてきた国で育つたので、違う国同士なのに同じ言語が通じるということはありませんが、留学中にも気にはなつていましたが、今回もこ

のようになることが興味深かったです。

四つ目は、日本の子供とアメリカの子供との読み書きの書く方の能力についてです。私は幼稚園でひらがなを習ったのが一番最初の字を書くということでした。そして、仮に漢字がわからなくてもひらがなで表現をすることができるいましたが、アメリカの子供はそうではありませんでした。アメリカの子供に度々スペルがわからないので書いてくれと言わされることがあつて、どうして母国語を第二外国語である私に聞いているのだろうと思つて手伝つていました。以前私は、日本でしか使われない日本語が正直あまり好きではなく、GHQはどうして日本語から英語の強制をしなかつたのだろうとふざけ半分で思うことがありました。文字の表現方法が多くて難しがられる日本語の良さをその時気付かされました。

み書きの書く方の能力についてです。私は幼稚園でひらがなを習ったのが一番最初の字を書くということでした。そして、仮に漢字がわからなくてもひらがなで表現をすることができるようになりましたが、アメリカの子供はそうではありませんでした。アメリカの子供に度々スペルがわからないので書いてくれと言わることがあつて、どうして母国語を第二外国語である私に聞いているのだろうと思つて手伝つていました。以前私は、日本でしか使われない日本語が正直あまり好きではなく、GHQはどうして日本語から英語の強制をしなかつたのだろうとふざけ半分で思うことがありました。文字の表現方法が多くて難しがられる日本語の良さをその時気付かされました。

経験を次のステップへ

海外インターンシップを終えて今後の課題としては、単語や表現方法を増やす為の英語の勉強をする事と、もつといろいろな外国人と英語を用いて会話をして新しい知識やアクセントに慣れたりして、海外に行つた時すぐに適応できるようになる為の環境作りといった日本でもできる事をどれだけできるかが大事だと思いました。また、今回のインターンシップで得ることができたモチベーションを維持して何事にも貪欲にチャレンジしていきたいと思いました。



↑「自分の受け持ったクラスでの集合写真」